CSI JOURNAL 2023

Center for
Social Innovation
Initiatives

混ざり合って、広がる世界。

CSIクロストーク

「ソーシャル・イノベーション」ってなんだろう

ソーシャル・イノベーション創出センター　秋葉 芳江 センター長

産・官・民・学が生み出すもの

動き出した、新たな挑戦

CSI活動報告

産官民学の連携／デリバリー・アカデミア
地域で活躍する学生たち／ SDGsへの取り組み
人材育成／公開講座／地域コーディネーターの活動

長野県立大学
THE UNIVERSITY OF NAGANO

Special Feature 1 Cross Talk クロストーク

秋葉 芳江 Akiba Yoshie
長野県立大学
大学院ソーシャル・イノベーション研究科 教授
グローバルマネジメント学部 教授
ソーシャル・イノベーション創出センター長
Office SPES 代表

秋葉センター長と学生コーディネータたち

「ソーシャル・イノベーション」ってなんだろう?

CSIも6年目となり、地域コーディネーターや学生コーディネーター（新設）など関わる人も入れ替わる中で、学び直しとして2023年12月上旬に合宿が行われました。その中で交わされた、秋葉センター長との対話の一部をピックアップし、CSIの特徴や方向性を再確認します。

改めて「ソーシャル・イノベーション」とは?

小宮山 そもそも「ソーシャル・イノベーション」とはどういうことですか?

秋葉 「イノベーション」と聞くと「科学技術的なもの」というイメージがあるかもしれませんが、必ずしもそうではありません。本学では「多様な利害関係者に配慮する、あるいは社会課題の解決に関わるイノベーション」を「ソーシャル・イノベーション」と呼んで、CSIではその創出を目指しています。CSIではイノベーションを①新商品の開発②新生産方式の開発③新市場の開拓④新しい仕入れ先の獲得⑤新組織の構築・再構成⑥社会変革・自己変革の6つで示しています。商品・サービスの売り方やそれを売る人の働き方、仕入れの方法や材料を変えてみるといったアプローチですね。6つ目の「社会変革・自己変革」は、わかりやすく言えば、固定観念や思い込みのようなマインドセット、さらに、社会の仕組みをも変えていくことです。例えば、障がい者の就労支援施設の商品は販売がとても難しい。発想を変えて、個性を際立たせた商品に仕立てて、購入者が、魅力的な商品だからと手に取ってよく見たら障がいをお持ちの方が描いたデザインだった。“えっ、びっくり!なおさら買う!!”というように。このように、商品のイメージや、受け手の見方や考え方自体を含めて変えていく。そういうことも自己変革であり社会変革に含まれます。ですから今の時代に合わなくなっている社会の制度・意識・思考・フレームワークを変えることもソーシャル・イノベーションの一つです。大学のCSIページにある「未来の子どもたちに『かっこいい社会をのこしてくれてありがとう』と言わせたい。」、これは初代の大室センター長の言葉なのですが「社会変革・自己変革」の集大成的な言葉だと思っています。世界的に有名な定義は、私たちも参考にしているスタンフォード大学の定義で『スタンフォード・ソーシャルイノベーションレビュー日本版（SSIR-J）』にも掲載されているのでぜひ読んでみてください。

内田 CSIの公開講座でSSIR-Jの読書会もやっていましたね!今度、自分でも企画してみようかな。

日高 自分は地域コーディネーター（以下CD）として日々活動する中で「ソーシャル・イノベーションを作ってやろう!」とは実は普段あまり意識していなくて。「自分が関わっているこれはもしかして新しい仕組みの種なのかもしれない」ということはありますが、「今まさにソーシャル・イノベーションを作っている」とは特に意識していません。そのあたりはどう考えていったらいいのでしょうか。

秋葉 そうですね。「ソーシャル・イノベーションの創出をめがけて活動する」というよりも、意図と余白を大事にしていたら、偶然から、思ってもみなかったことが新しく生まれてきた!みたいな心持ちをお勧めしたいですね。例えば、人材育成の分野で有名な「プランド・ハップンスタンス理論」があります。意図された偶然と言われるように、偶然といえば偶然なのだけど、ちゃんと身構えているから偶然が活かされていきます。「よし!今日はソーシャル・イノベーションを作るぞ!」って作り出せる印象はありませんよね。例えば、自分が日頃から問題意識を持っているからこそ、その問題を扱う人物に偶然会えることって、ありますよね。問題意識が下敷きにあるから、出会いを活かして主体性を持って積極的に話をしたり共有したりするから、プロジェクトに展開したりする。わかりやすく言うとそのようなことですね。誰でもなにか意図を持って物事に臨むと思います。でも多様な人と何かをするときには、自分が思った通りに人や物事は動かないですよね。人それぞれやりたいことやできることは違うから、それが自然ですよね。だからといってなんでもいいのではなくて、「こういう方向性になるといいな」という意図は大事です。活動の指針となる北極星…北極星だと堅いイメージですね、北斗七星ぐらいでもいいかもしれませんね（笑）。だいたいこっちだ、というように。砂場遊びで水を流すと、予想外な方向に流れる水もあってそれも面白いし、でもあらかたは意図する方向に流れていくという経験、あるでしょう。そういう姿勢でいいと思います。

北埜 なるほど。「ソーシャル・イノベーション創出センター」という名称だと、概ねの

方向を忘れないでいられるというか、明確ですね。

「コーディネーター」に求められるものとは

浅見　私は学生CDになったばかりでとてもワクワクしているのですが、落ち着いて考えると地域CDとか学生CD ってどういう仕事なのか、まだ友達にはっきり言えない部分もあって…。なんとなくはイメージできているのですが、どう言ったらいいのかなと。

秋葉　私たちも初めて立ち上げる挑戦なのでこれからですよ。こうならいいなと思うのは、地域と大学が関わる機会を積極的に創出する役割ですね。学生が地域とつながる機会や、学生が学内外で課題解決をするための機会創出を仕組みとして持っているのは本学の大きな特徴です。CSIやコーディネーターはその窓口となり、それをサポートする仕事。たとえば開学の年に、「私、ペットボトルやめたいんです!」という学生が相談に来ました。その学生は、いろいろ調べて相談してアイデアを具体化して理事長裁量経費を獲得し、最終的に学内3カ所のウォーターサーバー設置となりました。みなさんも毎日使っているあれです。他にも、地域でマルシェを開きたいという学生がいたら、「うちの商店街と連携したらいいのではないか」といったお声掛けを地域の方がしてくださるなどもあります。「ODDO Coffee（1期生が在学中に起業したコーヒースタンド）」も地域CDや職員が学生と地域の方の話を聞きながらおつなぎしてくれて、店舗スペースを貸していただけることになり開店に至りました。カッコいいストーリーはとてもスムーズに物事が運んでいるように見えますが、実は、はじめの一歩は誰かと相談して、ああでもないこうでもないと話したり時に悩んだりしながら進めていって、ようやく具体化していく。そのはじめの一歩の伴走支援役がCDのみなさんだったりCSI職員だったりします。学生が小さなやりたいことを持ってきて、それを大事にして実践・挑戦につなげる。その後押しをするのが私たちの役目なんです。

小宮山　僕も学生CDになったばかりですが、秋葉さんが学生コーディネーターに期待するものって何かありますか。

秋葉　ワクワク、ですね。学生CDのみなさんは、いまの時点でも既に新たな仕組みづくり挑戦の仲間です。大人の地域CDはそれぞれ生業を持っていて、まちづくりやさまざまな取り組みのスペシャリストでもあります。CSIはあえて自分の仕事・自分の持ち場を持っている方に業務をお願いしています。そういう地域の専門家と仕事をすることで、自然とコーディネートに関するあらゆるスキルが身について成長につながる部分もあると思います。多くの学生や地域と関わることで多様なエコシステムを作るお手伝いをしてほしいし、自分の成長も意識してほしい。CSIを立ち上げて丸6年。私達自身いつもワクワクを忘れないようにしてきました。常に挑戦し変化し続けてきたCSIから「ソーシャル・イノベーション」も少しは広まってきたかなと思います。だから、ぜひ楽しみながら頑張ってほしいですね。

香取　なんだかワクワクしてきました。いろんなことにチャレンジします!

全員　楽しみながら、みんなで「ソーシャル・イノベーション」を創出しちゃいましょう!

CSI合宿参加者
秋葉芳江（CSIセンター長）
日髙健・藤岡聡子・北埜航太・新井直彦（CSI地域コーディネーター）
浅見日菜子・内田大晴・小宮山文登・香取美友（CSI学生コーディネーター）

CSIのミッション

持続可能な社会の実現を目指し、ソーシャル・イノベーションを促進します。

CSIは、「社会課題を生まない」「社会課題を解決する」ことに理念を持つ人が、一歩を踏み出せるシステムを醸成し、持続可能な社会の実現に挑戦しています。
多様な立場の人々が絡み合う「オープン・イノベーション」を軸に、社会課題を解決するための新しい仕組みやサービス、商品等の開発を促進します。

知と実践の循環

社会的課題に取り組む事業者・創業者等を支援

地域の事業者と学生をつなぎ、社会人の大学へのアクセスを促進し、大学の知を地域に還元

- 大学内外の専門家によるコンサルティング
- 専門職・地域おこし協力隊・女性若者起業塾
- 事業者などへのオープン・イノベーション支援
- イノベーションにつながるネットワーク創出
- SDGs促進
- 審議会・企業研究などへ講師派遣 共同研究等の促進

大学教育との連携

地域におけるイノベーションの実像をロールモデルとして学生に提示し、次世代のイノベーターを養成

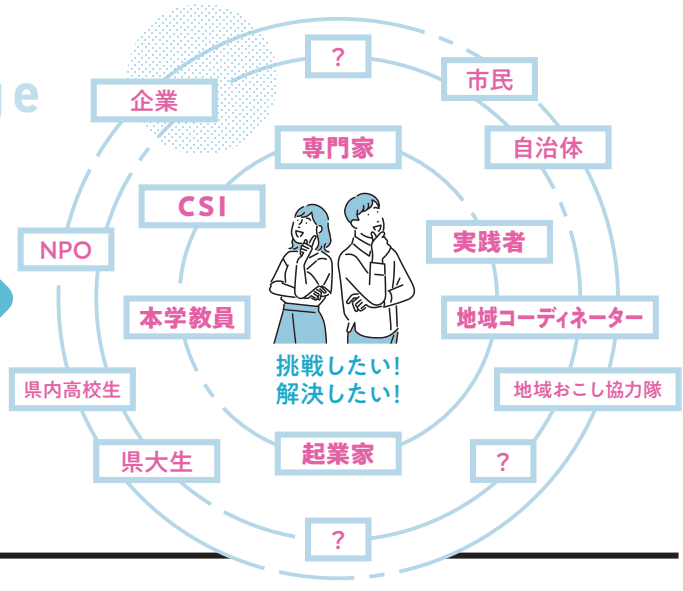
- 大学院生・学部生が地域・社会と関わる機会
- 学生と県民が共に学ぶ公開講座の開催
- 企業や行政と連携しながら問題解決機会の創出（Problem Based Learning）
- 創業者・経営者付き「カバン持ち」挑戦の機会を創出

CSIへのアプローチ　Ecosystem to challenge

〇〇に挑戦したい!
〇〇を解決したい!

ヒアリング・意見交換
csi@u-nagano.ac.jp

CSIを含めた
挑戦するエコシステムへ
接続・サポート



Special Feature 2

動き出した、新たな挑戦

〈産・官・民・学が生み出すもの〉

case 1

対話（Dialogue）から 変革（Change）を起こす、新しい共創の形

楽天グループ株式会社は、さまざまなステークホルダーの皆様と楽天が共に手を取り合い、より良い社会を目指していくための「対話」を起点にした取り組みDialogue for Change with Rakuten（以下、Dialogue for Change）を2022年にスタートしました。

「多様な幸せを実現するためのアントレプレナーシップ」をテーマに掲げた2023年のプログラムの特筆すべき点として、学生の皆様の積極的な参加が挙げられます。これは長野県立大学CSIとの連携が大きい部分です。

結果、チームの対話に多様な視点が持ち込まれ昨年以上に良い意味で粘り強い対話が各チーム展開されているのを感じました。

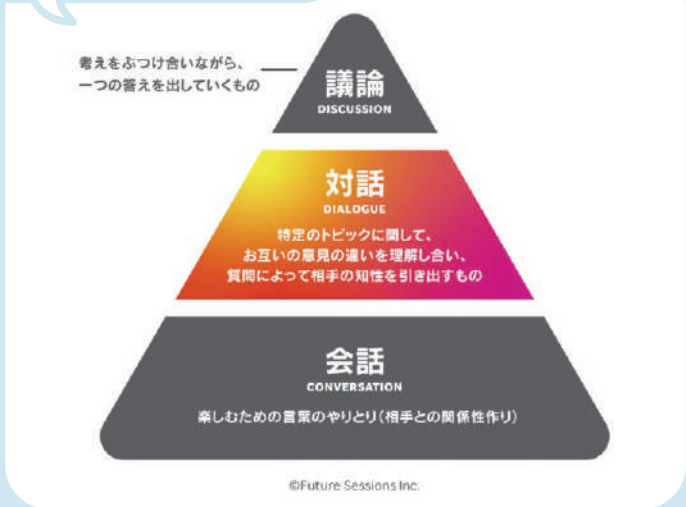
約半年間のプログラムを経て2024年1月27日に行われた活動報告会では、メンバーから未来を変えるヒントや気づきが社会に発信されました。また、報告会では単純に気づきを届けるだけでなく、その場に集まった約100名の人たちと一緒に各々がこれからできることを考え、終わりではなく変革の起点となる場となりました。

楽天グループでは本プログラムを通じて、より良い未来の実現に向け会社と社会の変革を促すと共に、対話の文化を社会に広める活動を通じてポジティブなインパクトの創出を図ってまいります。引き続きご期待ください。

（楽天グループ株式会社サステナビリティ部サステナビリティ課
ソーシャルインパクトグループ マネージャー 川那 賀一さん）

報告会の様子

なぜ「対話」なのか？



ビジネスの現場でよく行われる「議論」は、英語でDiscussionと記載し、Percussion（打つ）を語源としています。その名の通りお互いが意見をぶつけ合い正しいものを決めるプロセスで、どちらかが正しい答えを持っている場合に有効な手法です。一方で関係性を構築／維持するために日常的に行われる手法が「会話」であり、それ自身は新しいものを生み出すことには適していません。そこでその中間にあたる「対話」に着目しました。社会課題が複雑化し、誰もが正しい答えを知らない中で、お互いの違いを認め合い、新しい未来を目指し建設的にコミュニケーションをとる対話のプロセスこそ、これからのVUCAの時代（先行きが不透明で将来の予測が困難な時代）に求められる手法ではないかと仮定しました。

Dialgue for Changeはこの対話を軸に多様なステークホルダーと共に未来を探究するプロジェクトです。

case 2 大町市×JapanNavi×長野県立大学連携 グローバル発信プロジェクト

2023年度、株式会社JapanNaviでは大町市をシンガポール及び海外にPRすべく、新規プロジェクトを実施することとなりました。大町市には黒部ダムや立山黒部アルペンルートなど定番の観光スポットはありますが、豊かで美しい水の魅力や、市街地エリアの面白さはまだまだ海外に知られていないというのが現状です。それを学生の力を借りながら、海外向けツアー企画・SNS運営をしようというのがプロジェクトの概要です。

長野県立大学の学生を募集し、8名の学生とともに、インバウンド、ブランディングの2分野で、大町市の魅力を海外の方に知っていただくために日夜活動しています。活動の中ではシンガポール国立大学の学生とのディスカッションも交え、ユーザーのニーズをとらえた運用をと切磋琢磨しています。掲げられた目標の達成はもちろんですが、その中で必死に頭をひねって考えた作戦が上手くいったり、いかなかったりする日々を経験することで、少しでも学生の皆さんにとって良い学びの機会となり、大町市や長野県のことを知って好きになっていただけたら、これほど嬉しいことはないと思っています。

まだ活動期間が残っていますが、最後には学生の皆さんが「プロジェクトに関わって良かった」と思える状態になるよう、私も真剣に向き合っていきます！

（株式会社JapanNavi 渡邊 日緒里さん）

case 3 “三方良し”を目指す高山村と 長野県立大学とのコラボレーション

北信担当コーディネーターの日髙さんとのご縁から、CSIの須藤さん、学生コーディネーターの小宮山さんらと一緒に、長野県立大学と高山村との協働の形をゼロからつくり上げています。

私自身が高山村出身で、現在地元の宿泊施設で働く身です。地元の観光業の観点や、農業や暮らし全般において、村内の固定化された人間関係の中だけでなく、外部の学生とのコラボレーション、学生の実践の場として高山村内の事業者が一緒になって企画やプロジェクトをつくり上げることで、地域に新しい“風”が入り、事業等もより活発で優れたものになっていくのではないかと考えています。

実際に、秋に試験的に開催した高山村の紅葉と星空を楽しむ学生向けプログラムでは、ちょうど見頃を迎えていた紅葉をバックに何十分でも写真を撮って楽しむ姿、星空観賞で星を案内していく中で心から感激してくれる様子を見ることができました。高山村の自然が観光資源として今の若者にも魅力が伝わる様子や、逆に今のままではそれらがきちんと外に発信できていない、観光商品として整えられていないことも痛感しました。

現在は高山村役場にも協力を得ながら、手探りで長野県立大と高山村とのコラボレーションの形を模索しているところです。学生にも地域事業者にも良い影響が生まれ、そしてそのアイデアによる付加価値が新たな顧客獲得と満足度向上につながる“三方良し”のコラボレーションになることを目指して取り組んでいます。

（REDWOOD INN マネージャー 竹内 大貴さん）

産官民学の連携

産官民学それぞれの得意分野を活かしながら
連携して取り組むことにより、新たな価値創出や
地域課題の解決を推進しています。

ひろがれ! 推し村プロジェクト

長野県元気づくり支援金を活用した本プロジェクトは2年目となります。昨年度と比べて今年度は、学生がほぼ毎月村に来て「空き家DIYイベント」といった自分たちで企画したイベントの開催や、運動会、盆祭りといった村の行事にも参加し、王滝村をにぎやかにしてくれました。

学生の企画力、行動力に驚かされることが多々あります。むしろ学生だからこそできることをフルに活かしてもらったと思います。今後はもっと多くの村民を巻き込んだ活動をしてもらえるよう協力していきたいと思います。

（王滝村 企画・観光推進室 峯村 雄大さん）

哲学対話を用いた職員研修

若手職員（140名程度）のコミュニケーション能力の取得を目的として、県立大学の神戸先生を講師にワークショップ形式で実施しました。普段、同じ庁舎の下で働いている仲間同士、「哲学対話」を通して「答えがなかなか出ない問い」については共に耳を傾け、共に深め合うことの重要性を感じたのではないでしょうか。

魅力あるまちづくりの実現は、市民との積極的な対話が必要不可欠です。研修を受けた若手職員には、「哲学」という新しいカタチでの「対話」を、それぞれの部署において市民あるいは職員同士に対し、実践してほしいと期待しています。

（千曲市 総務部 行政マネジメント室 牧野 高敏さん）

JIBUN発 旅するラボ

『JIBUN発 旅するラボ』は、高校生が自分自身を探究するための活動の場です。距離の壁や世代の壁を超えたオンライン部活や、県内企業訪問などのリアルな体験を通して、社会への問題意識や固定概念について語り合い、新たな問いへの出会いを生んでいます。

この活動も2024年4月で4年目になります。大学生メンバーはじめ、長野県立大学、長野県教育委員会、長野県中小企業家同友会、KDDIのサポートで、さらにアップデートした「自分を探究する旅」を、生徒も大人も経験していきたいと思います。

（KDDI株式会社 地域共創推進部 横幕 秀明さん）

学生のためのゲートキーパー講座

ゲートキーパーとは、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなげ、見守る人のことを言います。この講座は、長野市自殺対策行動計画に基づき、長野県立大学・信州大学教育学部・長野保健医療大学との連携事業として実施しています。学生がピアサポーターとして講座を実施し、県立大からは宮崎紀枝先生と大場航先生にアドバイザーとしてご協力いただいています。今年度は82名が参加し、学生が置かれている生活環境・社会的な立場・孤独など、学生のリアルな問題を学生の皆さんが友人から相談を受けた時に、適切に行動できるゲートキーパーになることを目指しました。今後もゲートキーパーの輪を広げていきたいと考えています。

（長野市保健所 健康課 酒井 美鈴さん）

飯綱町保育・子育て支援 長野県立大学コラボレーション事業

飯綱町では平成31年度より県立大学との連携事業をスタートし、令和5年度からは「教育・保育及び子育て支援分野における連携に関する協定書」を締結して、子育てへの支援や、専門講座の実施等を連携して行っています。令和3年5月に開設した子育て世代支援施設「みつどんのお家」では学生さんとの交流事業を行っており、学生さんの実践の場としてだけでなく、保護者の大きな安心につながっています。また専門講座は、保護者や保育士にとって貴重な学びの機会となっています。今後は、子どもの人権に対する意識の高まりの中、保育の質の向上へも引き続き連携して取り組んでいきたいと考えています。

（飯綱町教育委員会こども子育て未来室 仲俣 啓子さん）

WaaS共創コンソーシアム（JR東日本主催） ウェルネス・サイクルツーリズム実証

飯山市を中心とする奥信濃エリアの市町村では、信越自然郷として広域観光を推進しています。観光需要が多様化し、地域のモビリティを活かした魅力的な観光コンテンツが求められる今、飯山市と野沢温泉村をフィールドとして「ウェルネス・サイクルツーリズム」の可能性を県立大の築山先生・小木曽先生らとともに検証しました。本件は、信越自然郷が誇る温泉や食、ウェアラブル端末によるバイタルデータの計測といった健康・ウェルネス体験とだれでも気軽に移動と運動ができ自然を五感で楽しめるE-BIKEによるサイクルツーリズムを掛け合わせた新しい観光モデルの創出を目指した産官学連携での実証実験です。持続可能な観光まちづくりに向けて頑張る地域を貴学と連携しながらこれからも応援していきます。

（長野工業高等専門学校 工学科都市デザイン系
都市・交通計画分野 准教授 轟 直希さん）

長野県立大学がこれまでに締結した協定一覧（2023.11.30現在）

No.	締結年月日	締結先	協定の種類
1	2018. 7.10	長野市	包括連携協定ほか
2	2018. 9.11	飯山市	包括連携協定
3	2018.10. 5	千曲市	包括連携協定
4	2019. 2. 5	長野県 BIPROGY㈱	ソーシャル・イノベーションに関する連携協定
5	2019. 3.15	中野市	包括連携協定
6	2019. 6. 4	須坂市	包括連携協定
7	2019.11. 8	KDDI㈱ （一社）長野ITコラボレーションプラットフォーム（NICOLLAP）	包括連携協定
8	2020. 1.31	（独）国立高等専門学校機構長野工業高等専門学校（長野高専）	包括連携協定
9	2020. 8. 4	長野県教育委員会 KDDI㈱	包括連携協定
10	2022. 3.29	国立大学法人信州大学	包括的連携協定
11	2022. 5.27	王滝村	包括連携協定
12	2023. 4. 1	飯綱町	教育・保育及び子育て支援分野における連携に関する協定
13	2023. 5.30	（一社）VENTURE FOR JAPAN （一社）長野ITコラボレーションプラットフォーム（NICOLLAP）	包括的連携協定
14	2023. 6. 1	（公財）ながの観光コンベンションビューロー	包括的連携協定
15	2024. 2. 6	東御市	包括連携協定

デリバリー・アカデミア

長野県立大学は、地域の「知の拠点」として
地域に開かれた「ともに歩む大学」を目指しています。
その活動の一環として本学の教員が講師となり、
地域の皆さまにリカレント（生涯学習）、
リスキリングの機会を提供しています。

諏訪二葉高校

だれでもできる哲学対話　講師▶グローバルマネジメント学部 馬場 智一 教授

受け身の学習に慣れている生徒たちが、自ら“課題”（テーマ）を見つけていかなくてはならない「総合的な探究」の時間が始まった時、教師からではなく生徒たちの“問い”をきっかけに物事を多角的にとらえていこうとする哲学対話のねらいに出会いました。

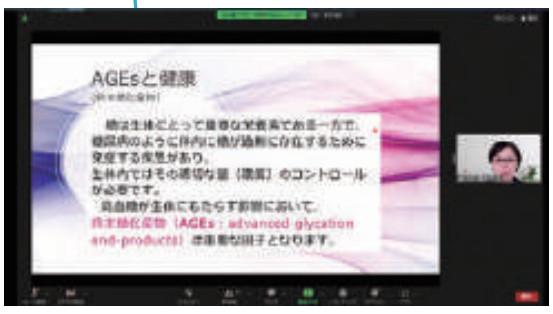
難しいイメージの“哲学”ですが、クールな馬場先生から出る言葉に生徒たちは惹きつけられ、何が正解か誰にもわからない世界に入っていきました。講座を終えた生徒から「いろいろな人がいろいろな考えをもっていることを知ることができて楽しかった」「普段考えないようなことを考えて、自分の考えがわかった」「対話の大切さを知った」との感想が寄せられました。

哲学対話は日常的にさまざまな場面で実践しないと、成果としてわかりにくい側面があります。まさに育成を目指す資質・能力の「学びに向かう力、人間性の涵養」であり、生徒とともに職員の研修も欠かせないと実感しました。今後の生徒たちの学びの姿に期待が大きく膨らみます。

（諏訪二葉高等学校 教頭 戸谷 良住さん）

長野県栄養士会

終末糖化産物（AGEs）と健康　講師▶健康発達学部 食健康学科 石井 陽子 教授



長野県栄養士会生涯教育研修会では、石井陽子先生から「終末糖化産物（AGEs）と健康」と題し、老化を加速させる原因物質の1つAGEsについてご講演をいただきました。AGEsについての解説、身体に及ぼす影響などをわかりやすくご説明いただきました。AGEsを過剰に蓄積させないためには、食後高血糖を避けるためにバランス食が大切であることや、高温調理についても注意する必要があることなどが理解できました。

参加者より「AGEsの基本、体内での影響、過剰に蓄積させない対策、わかりやすく勉強になりました」「AGEsをためないために揚げ物や焼き物の調理方法の頻度を考える必要がある」などの感想が寄せられました。研修会を通して得られた最新知識を、活用していきたいと考えております。

（（公社）長野県栄養士会 副会長 水野 尚子さん）

北信保育連盟

音の表現を楽しみましょう！　講師▶健康発達学部 こども学科 安氏 洋子 准教授

安氏洋子准教授を講師に招き、北信保育連盟の保育士が「音の表現」についての講義を受けました。音楽的活動の実践について、「聴く・歌う・動く・奏でる・つくる」という体験が楽しめるよう、保育士も子どもも遊びや生活の中で、感動的な経験を多く重ねることが大事であると学びました。

グループワークで行った「音の絵本作り」では、楽器だけでなく、リサイクル教材や生活用品等を使い、絵本一冊のページに合わせた情景を音で表現する経験を初めて行いました。グループ発表をする中で、それぞれ創意工夫された音作りに感心し、また、「音の絵本」を作り上げた達成感を味わうことができ、「音」の持つ、情感・景色・スピード感等、豊かな表現方法があることに気づきました。

今回学んだことを活かし、子どもたちと自然や生活の中のいろいろな音を探し、「音作り」を楽しんでみたいと思います。

（北信保育連盟事務局（山ノ内町健康福祉課）湯本 悦子さん）

2023年度「デリバリー・アカデミア」実績一覧

月日	団体名	講座名	講師名
4月 27日	飯田風越高等学校	だれでもできる哲学対話	馬場智一 教授
5月 11日	木曽青峰高等学校	だれでもできる哲学対話	馬場智一 教授
5月 18日	諏訪二葉高等学校	だれでもできる哲学対話	馬場智一 教授
6月 28日	須坂市教育委員会	今、保育に求められる子どもと保護者の支援とは	中山智哉 教授
7月 5日	千曲市健康福祉部	地域社会における男女共同参画について	築山秀夫 教授
7月 8日	（一社）長野県保育連盟 北信保育連盟	今、保育に求められる子どもと保護者の支援とは	中山智哉 教授
7月 11日	須坂市立東中学校	だれでもできる哲学対話	馬場智一 教授
7月 31日	（一社）長野上水内教育会	だれでもできる哲学対話	馬場智一 教授
8月 3日	須坂市立須坂支援学校	今、保育に求められる子どもと保護者の支援とは	中山智哉 教授
8月 4日	辰野町保育園職員会	今、保育に求められる子どもと保護者の支援とは	中山智哉 教授
8月 8日	（一社）長野県保育連盟 北信保育連盟	音の表現を楽しみましょう！	安氏洋子 准教授

月日	団体名	講座名	講師名
8月 27日	（公社）長野県栄養士会	終末糖化産物（AGEs）と健康	石井陽子 教授
9月 7日	小諸商業高等学校	変わりゆく企業モデル	大室悦賀 教授
9月 23日	長野県教育文化会議諏訪支部 図書館研究会	だれでもできる哲学対話	馬場智一 教授
10月 10日	諏訪二葉高等学校	だれでもできる哲学対話	馬場智一 教授
10月 24日	諏訪二葉高等学校	だれでもできる哲学対話	馬場智一 教授
10月 27日	飯田風越高等学校	だれでもできる哲学対話	馬場智一 教授
11月 30日	篠ノ井高等学校	哲学対話で学習をさらに深めよう！	神戸和佳子 講師
12月 22日	博愛保育園	今、保育に求められる子どもと保護者の支援とは	中山智哉 教授
1月 18日	長野市篠ノ井老人福祉センター	盛唐の詩人杜甫からの贈り物	谷口真由実 教授
1月 24日	長野県中小企業家同友会	変わりゆく企業モデル	大室悦賀 教授

地域で活躍する学生たち

CSIは、学生の地域との連携支援を積極的に行っています。
楽しみながら地域とつながり、可能性を広げていく。
そんな学生が何に取り組んでいるのか。活動を紹介してもらいました。

@EGG.LIEN.SPACE

こども学科1年
下島 佳純さん

グローバルマネジメント学部1年
木田 結菜さん

ー Egg Lien Space ー

Egg Lien Spaceというチームを組み、学生たちの第3の居場所作りを提供したい!そして新しい出会いや発見のきっかけを作りたい!と思い、働く人の「リアルな声」が聞ける交流会や有名人の講演会などのイベントを開催しました!

#若者　#新しい出会い
#新しい発見!

グローバル
マネジメント学部1年
各務 真帆さん

ー Fair&Happiness「lupus」ー

長野市内のイベント「起業クラブ」でご縁があり、フェアトレードコーヒー・紅茶の販売をしています。日本人の衣食住に困らない平和な生活を、発展途上国の人々にも送ってもらいたいという思いでフェアトレードを伝える活動をしています。世界のみんなが幸せになれるよう、今後はコーヒー販売にとどまらず、様々なことに挑戦していきたいです。

#出会いに感謝
#フェアトレード
#全ての人に幸せを

グローバルマネジメント学部2年
今井 玲那さん
須崎 菜緒さん
松尾 有紗さん
青木 ひなたさん

ー ダイヴ ー

グローバルマネジメント学部2年生の4名で、「衣類廃棄をなくしたい」そんな思いを持って古着屋を始めました。活動は不定期ですが、長野市で開催されるイベントに参加しています。イベントを通して、古着を購入していただく以外にも、地域のみなさんと交流できるのも魅力であると感じています!

#古着　#イベント　#交流

こども学科 **有志**

ー みちくさ ー

長野市にある長命寺で毎月第3土曜日に活動しています。子どもたちと遊んだり、縁側でお喋りしたり。居心地の良い場所、やりたいことができる場所にすることを大切にしています。最近は、地元の中学生や他の団体さんと一緒に企画し、子どもを中心としてさらに幅広い年代の方々が集まる場になってきています。

#居場所づくり
#多世代交流
#みちくさを食う

グローバルマネジメント学部4年
古川 綾峰さん

ー Camellia ー

大学生になって様々なつながりを持つ中で、「好きなことを仕事にする」人に多く出会ってきました。その中で、「自分が好きなドライフラワーのアレンジメントを通して多くの人を笑顔にしたい!」と思い、アレンジメントの制作と地域のマルシェへの出店販売を行ってきました。私が作ったものを通して地域の人が少しでも笑顔になってくれることが今のやりがいです。

#お花で笑顔に　#好きなことをやっていく
#癒しの時間

こども学科1年

向山 佑美 さん

ー We are Buddies (WAB) ー

子どもと大人が2人組のバディズとなり、フラットな関係性を築く「We are Buddies (WAB)」の活動を長野市で始めます。WAB事務局のサポートを得て、今回は5組のバディズのトライアルを行います。子どもが第三者の大人と細く長くかかわる世界、お互いの信頼から生まれる景色を共に創っていきたいです。

#こどもとおとな
#フラットな関係性
#信頼

@WE.ARE.BUDDIES

グローバルマネジメント学部4年

上海 穂乃佳 さん

ー ふらっとb ー

もんぜんプラザ3階に若者の居場所を作るボランティアプロジェクトに参加しました。学校の枠を超えて若者が集まり、どんな場所や空間にしたいのかを一から話し合い、実際にDIYして「ふらっとb」という空間を作りました。また完成後には、県知事にこの活動について発表させていただきました。人とつながる場所、「やりたい」を形にできる場所です。ぜひ、ふらっと来てみてください!

#ボランティア　#やりたいを形に
#ふらっと行ける場所

グローバルマネジメント学部

田口 瑠星 さん
杉山 萌衣 さん
八田 登生 さん
篠田 和奏 さん
石川 昌巳 さん

ー NAGANO STARTUP STUDIO (NSS) ー

私たちは、「NAGANO STARTUP STUDIO (NSS)」でインターン生として運営に携わっています。NSSは、長野市と提携して起業家支援を推進する事業です。起業に関するセミナーや資金調達のための発表などが行われています。大学生の参加者も多く、学生向けのイベントも行っています。友達と一緒にぜひ気軽に参加してください!観覧のみでも大歓迎です!

#起業　#やさしい起業家コミュニティ

グローバルマネジメント学部1年

長岡 陽向 さん

ー 循環型まちづくり ー

10月に開催された学園祭FUNで、環境先進都市フィンランドの大学生による環境取組の発表プログラムを行いました。長野市×小布施町×フィンランド・トゥルク市による「循環型まちづくり」のプレゼン・意見交換は英語で行われ、来場者も含め国や年齢を越えて交流できました。便利なものであふれた私たちの暮らしを見直すきっかけとなりました。

#協働　#循環型まちづくり
#話すって楽しい

グローバルマネジメント学部3年

白土 姫歌 さん

ー SDGsガチャガチャ ー

学園祭で「SDGsガチャガチャ」を行いました。課題解決のためには1人1人の力がとても大切。そこで『現状は深刻で複雑かもしれない。でも「知る・学ぶ」という過程は気軽で楽しくてもいいのではないか』という思いから、今回の企画を実施。自分で発案すること自体初めてでしたが、素敵な仲間たちに恵まれて、多くの来場者の皆様に楽しんでいただけ、完売することができました!現在はさらにパワーアップした企画を立案中です。

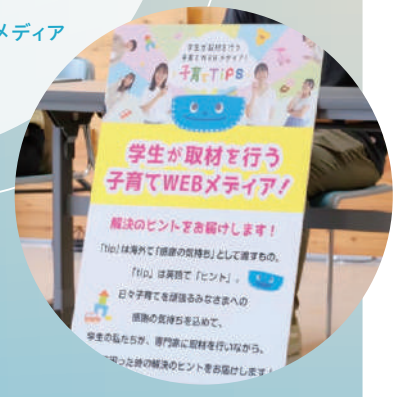
#SDGs
#まずは知ること・学ぶこと
#一歩踏み出す勇気

こども学科3年

金子 詩奈 さん

WEBメディア「子育てTips」でライターをしています。記事は現役の保育士さんに直接取材させていただき、信頼できる情報を届けられるようにしています。保育士さんへの取材は、保育学生として自分の学びになることも多く、楽しみながら活動しています。

#子育てWEBライター
#学生が専門家に取材するWEBメディア
#子育ての役に立ちたい



グローバルマネジメント学部3年

増田 卓真 さん

ー EHRLICH ー

長野市善光寺下駅近くの古民家シェアオフィスで、美容脱毛サロン「EHRLICH (エアリッシュ)」を経営しています。美容脱毛を生活のスタンダードにし、剃毛への嫌悪を感じる人を減らしていくために活動中です。多くの社会人の方にご来店いただいております!

#美容脱毛　#学生起業　#脱毛をスタンダードに

SDGsへの取り組み

第2回 長野県立大学 SDGs・地域貢献アイデアコンペティション

令和5年5月17日に「第2回長野県立大学 SDGs・地域貢献アイデアコンペティション」を三輪キャンパスラーニングホールにて開催しました。このコンペティションは、本学学生の自由な発想と豊かな着想による学内外でのSDGsの実現や地域の活性化・発展に向けた活動の経費を助成し、本学の地域貢献を推進することを目的として、第一生命保険株式会社様と炭平コーポレーション株式会社様のご支援により、令和4年に引き続いて実施しました。

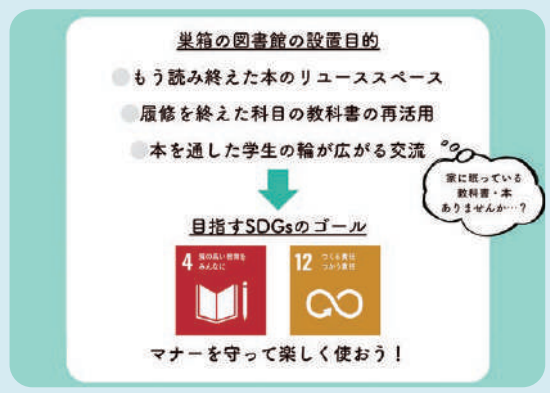
今回は6件の取り組みがプレゼンテーション審査に臨み、第一生命保険長野支社 重石支社長、炭平コーポレーション 鷲澤社長、金田一学長、秋葉CSIセンター長の4名の審査員による審査の結果、グローバルマネジメント学部3年の土持万由香さんが企画した『みんなの図書館』が第1位を受賞しました。

第2回長野県立大学 SDGs・地域貢献アイデアコンペティション

第1位「みんなの図書館」

グローバルマネジメント学部3年 土持 万由香さん

「巣箱の図書館」を設置する前までは、教科書が高価で購入することができない一部の学生がいる反面、教科書を購入したものの履修が終わったあとは全く使わずに処分してしまうという課題がありました。その状況を変えられないかと思い、コンペティションへの応募を決意しました。現在では、LINEのオープンチャット機能を活用し、学生たちが本を通して交流できる場作りをしたり、「巣箱の図書館」関連イベントを開催したりしています。「巣箱の図書館」は長野県立大学内に3か所、市役所前駅近くのFluc base.（フルク ベース）というコンテナカフェに1か所設置されています。少しでも興味があれば、ぜひ一度利用してみてください！



支援企業からのコメント

第一生命保険株式会社

長野北営業オフィス長 内間 亘太さん

想い溢れる学生さんと時間を共有でき、SDGsとは、身近なことからできることを見つけ、考え、行動し続けることで実現しうるものだなと改めて気づかされました。“長野県のため”そして“自分の未来のため”。学生である今しかできないことがたくさんあります。これからもみなさんの活動を応援しています。

炭平コーポレーション株式会社

管理部 部長 吉越 善広さん

SDGsに係る地域・学内の課題解決という点において、学生ならではのユニークな発案で、周りを巻き込みながら「大人」の懐に飛び込み、自分の考えを守りつつ行動されていました。私たちは「出る杭」の味方であり続けますので、これからも存分に本領を発揮し続けていただきたいと思います。

屋代高校・附属中学校の探究学習・中間発表会

屋代高校では附属中学から高校3年生まで系統的に探究活動に取組み、近年はSDGsをテーマに取り組む生徒が増えたことから、今年も秋葉先生に「SDGsの世界的意義と概要」について5月に講義していただきました。また、8月の中間発表会ではポスター発表に対して助言をいただき、生徒達の探究活動を継続するモチベーションとなりました。

各自の切り口から地域課題に取り組む生徒に対し、地球規模の課題を身近な生活と結びつけ、自分事として考えるきっかけを高校生に与えていただき、また、教科の枠組みを越えて文理融合の視点でお話をしていただくことで、生徒の視野が広がり、国際性の育成にもつながっています。

（屋代高等学校SSH主任 大石 超さん）

SBCラジオ「ミックスプラス」内の「平山未夢のsustinable development goals season2」

2022年10月からコーナーが始まり、SDGsにまつわる県内の活動を紹介してきました。その中で「SDGs」そのものの理解を深めたいと、昨年秋より秋葉先生にご出演いただいています。先生はSDGsについて、「この地球で長く生きていきたいでしょ？そのために世界みんなで頑張ろうと合意したもの」と表現。ラジオは声のメディアで、映像がない難しさもありますが、小学生でも分かる易しいご解説に大変好評をいただいています。

SDGsに関心をもった大学時代から大切にしていることは、「1人が完璧に向き合うより、100人が1%ずつ意識できたら素敵だね！」という想いです。ラジオを通して身近に感じていただき、小さな一歩に繋がることを願っています。

（信越放送アナウンサー 平山 未夢さん）

秋葉先生の授業にて講義

エシカル視点で料理教室を開催

この料理教室では「食品ロスを出さない」「燃料消費を軽減する」という点からレシピを考えました。食材の保存方法や調理方法を工夫すると、食品ロスを減らすだけでなく調理も楽になります。また、地元の旬の食材を使うと、季節外の食材生産時や輸送時の燃料を削減することにもつながります。実際に調理し、ともに食べながら話をすることで、こうした生活の裏にあるエシカル視点を持つきっかけの一つになったと思います。

身近なエシカルを日々の生活の中で無理なく取り入れていただけることを期待すると同時に、この料理教室がそうした気づきの一つとなったのであれば嬉しいです。

（ゆめママキッチン店長 大口 知子さん）

信州SDGsアワード2023受賞 ―Stowly Marche―

「深呼吸したり、チャレンジしたりできる場所。感じて、学び、考え、自分が溢れ出ちゃう。人々がより心地よい時間を過ごせる1つのきっかけを創る。」というミッションを掲げ、長野市内で場づくりをしています。この活動を始めて2年間、地域の多様な人々とつながり、たくさんの応援やご協力をいただきました。個人事業のみなさんやチャレンジ精神を持った学生が活動できる場を用意することで、地域と学生がつながる場と人々が心地よい時間を過ごせる場を創り続けています。この活動を評価していただき、「信州SDGsアワード2023」を受賞しました。いつもお世話になっているみなさん、本当にありがとうございます。

（Stowly Marche 小宮山 文登さん）

大学のこれまでの取り組み

電力を全て再生可能エネルギーで調達 国公立大学として初の再エネ100%大学達成（2021）

本学では、使用する電力を長野県の水力発電由来の電力100%で調達しています。この取り組みにより第22回グリーン購入大賞「優秀賞」を授賞しました。

長野県SDGs推進企業登録制度への登録（2019）

SDGsと組織活動との関連について「気づき」を得て具体的なアクションを進めるため長野県が全国で初めて制定した制度の第1期登録組織として本学が登録されました。

ペットボトルを使わない ウォーターサーバーの設置（2021）

「プラスチックごみを削減したい」という学生の提案により、理事長裁量経費で学内に給水ボトル不使用のサーバーが設置されました。

人材育成

今年度もさまざまな人材育成を行いました。
多様な人々がつながることで、より多くの発想が生まれ、
可能性が広がっています。

KISO起業塾

主催：木曽地域振興局　期間：2023年9月1日～ 9月28日（全3回）、フォローアップ講座7月7日

木曽地域で起業を考えている方向けの起業塾が、開塾から5年目を迎え、今年度は20名の方が参加しました。

起業に関する最新の情報から、今後の自身のキャリアを考える手段などを学ぶことができ、受講生から「とても刺激になる学びの場だった」などの声をいただきました。また、過去に起業塾へ参加した方へフォローアップ講座を開催し、実際に起業した方、起業に向けて動いている方との情報交換を行いました。受講生から「秋葉先生やほかの参加者に会うことがモチベーションとなっている」という声をいただき、非常に嬉しく思っております。

女性・若者はもちろん、すべての人が起業を目指すことができる時代です。今後も木曽地域の皆様が、一歩踏み出すことのできる機会を提供できればと思います。

（木曽地域振興局商工観光課 小林 萌奈さん）

北信・北アルプス地域おこし協力隊起業塾

主催：北信地域振興局、北アルプス地域振興局　期間：2023年7月4日～8月22日（全3回）

地域での起業を目指す地域おこし協力隊員が、起業に対するマインドセットやビジネス手法を学ぶ「地域おこし協力隊起業塾」。今年度は、北信・北アルプス地域から4名の隊員が受講しました。講義の中では、秋葉先生との対話や参加者同士のペアワークも行われ、オンライン形式でも活発なコミュニケーションが生まれていました。

受講した隊員からは、「起業への意欲や行動を起こしてみようという気持ちが増した」、「受講を通して隊員同士のつながりができた・濃くなった」との感想が寄せられました。自身の将来設計を考えるだけでなく、隊員同士のつながりづくりとしても有意義な時間となり、隊員の今後の活躍に期待が高まります。

（北信地域振興局企画振興課 髙橋 ひなさん）

飯山高校・長野県立大学コラボ授業

主催：北信地域振興局　期間：2023年6月29日、7月13日（全2回）

飯山高校では北信地域振興局と長野県立大学CSIと連携し、「はたらくことと学ぶこと」をテーマに毎年コラボ授業を実施しています。今年度は「はたらくとは何か」「なんのために学ぶのか」という「問い」について全3回のプログラムを実施しました。第1回は県立大の神戸和佳子先生による『哲学対話』ワークショップ、第2回はその活動を活かして10名のゲスト（地元事業者や県立大生など）との対話、第3回は振り返り学習を行いました。

働くことの大変さと大切さ、さまざまな価値観を知り、将来について考えるきっかけになった生徒が多く、各業種でどのような人材を求めているのか生の声を聴く教職員の研修の場にもなり、とても充実した活動になりました。

（飯山高等学校 教諭（教科：理科）池田 圭吾さん）

秋葉センター長　講演・委員会等活動実績（2023.4~2024.2）

講演会等講師
Dialogue for Change with Rakuten（5/16、9/3）
屋代高等学校・附属中学校 探究学習講義（5/30）・中間発表会（8/26）
地域おこし協力隊起業塾（7月～8月）
KISO起業塾（7月～9月）
NTTグループ人材育成研修（7/11）
HLAB OBUSE 2023（8/19）
上田染谷丘高等学校PTA講演会（11/23）
フューチャーセッションズ共創総会2023（12/5）
長野県ソーシャル・ビジネス創業支援金オンライン報告会（2/22）

審議会・委員会等
長野県契約審議会（委員長代理）
長野県政府調達苦情検討委員会（委員長代理）
長野県産業イノベーション推進協議会本部会議（本部員）
長野県みんなで支える森林づくり県民会議（構成員）
長野市商工振興・雇用促進審議会（委員）
滋賀県公立大学法人評価委員会（委員）
2027年国際園芸博覧会政府出展懇談会（委員）

審査員
長野県みらい基金休眠預金イノベーション事業審査会（審査委員長）
SDGs・地域貢献アイデアコンペティション
信州SDGsアワード2023
第12回信州ベンチャーサミット
農水省・環境省・消費者庁連携サステナアワード2023（審査委員長）

メディア出演
SBCラジオ「ミックスプラス・平山未夢の sustinable development goals season2」（定期）
LOHASTYLE 情報メディア「LIVIKA」インタビュー

公開講座

CSI公開講座は、学生も参加し、地域のみなさんとともに未来を考える学びの場。新1年生やこれからの学生が気軽に話を聞けるミートアップ形式が増え、地域の方と大学の交流がより促進されました。

4月ミートアップ（全3回）

実施日▶2023年4月4日・5日・6日（全3回）
ゲスト▶Nagano Startup Studio／合同会社REXT滝越／R-depot／シンカイ／日髙健さん・北埜航太さん・藤岡聡子さん・新井直彦さん（CSI地域コーディネーター）／地域で活躍する先輩学生

参加者の声　熱い思いを持ったセンパイや大人と交流できて良かったです。モチベーションになりました！

5月ミートアップ（全2回）

実施日▶2023年5月10日・11日（全2回）
ゲスト▶Nagano Startup Studio／AC長野パルセイロ／高桑雅弘さん（醸鹿）・北埜航太さん（CSI地域コーディネーター）／地域で活躍する先輩学生

参加者の声　聞きたいことが聞きやすい雰囲気でとても心地よくお話しできました！

コーヒーと本と金平糖 －SSIR-J読書会－

実施日▶2023年6月18日
ゲスト▶井上英之さん（『スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー日本版』共同発起人）
「より身近にイノベーションを話せるように」という学生の思いから実現。

参加者の声　本をみんなで読んで共有する体験をしたことがなかったのでとても楽しかった。お互いの興味や実体験を元にして話を進めることができて良かった。ぜひ次回も参加したいです！

「好き」からはじめる自分のやりたいことの探し方（全4回）

実施日▶2023年6月6日・8月2日・10月7日・1月31日
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ▶川向思季さん
小宮山文登さん（合同会社キキ）
「アクションの始め方」が人から人へ伝播するワークショップ

参加者の声　何か新しいこと、自分のやりたいことをしたいなと思い始めて、参加してみました。自分とは違う意見を持った人たちと話したことで考えの幅が広がり、思った以上に楽しくて、また参加したいなって思いました！

「つなぐ」が長野にゆるやかな変化を起こす －県内4エリアのプレーヤーと考える地域への関わり方－

実施日▶2023年6月7日
ゲスト▶藤岡聡子さん・北埜航太さん・新井直彦さん・日髙健さん（CSI 地域コーディネーター）
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ▶藤原正賢さん（長野県移住総合ウェブメディアSuuHaa 編集長／前CSI地域コーディネーター）
コーディネーターの体験から考える、仕事としての「つなぐ」。

参加者の声　「コーディネーターとして大切にしていること」をお聞かせいただき、とても参考になりましたし、とても頼りがいを感じました。皆さんとつなぎ、つながれながら地域を盛り上げていきたいと思います。

6月ミートアップ

実施日▶2023年6月12日
ゲスト▶君島登茂樹さん（HAKKO MONZEN）
岩間千佳さん（NPOえんまる）
藤岡聡子さん（CSI地域コーディネーター）

参加者の声　探究心と行動力が高い人のお話を聞けたので、自分も頑張らなきゃなと改めて思えました！

起業やNPO立ち上げはまだよく分からないけれど、今を大事にして自分のやりたいことを大事にする大切さを学べました！

世界を変えるアイデアのうまれかた －Youth Co:Lab ソーシャル・イノベーションチャレンジって？－

実施日▶2023年9月14日
ゲスト▶天野裕美さん（国連開発計画（UNDP）駐日代表事務所ユース連携コンサルタント）
海外の課題を減らすためのアイデアはどうやって生まれるのか。

参加者の声　自分の中にあった国連関連のイメージは堅くて遠いものでしたが、天野さんのお話を通して身近に感じることができました。グローバルについて考える場面では、「身近な部分から現状を知ることや自分のやってみたいことに挑戦することが大切だ」と自分の意見を持つことができました。

【コラボ公開講座】作る！エシカル料理教室

実施日▶2023年10月29日
共同主催▶エシカルふぇす実行委員会
ゲスト▶大口知子さん（（一社）日本キッチン育児協会代表／簡単レシピ研究家／フリーライター／テレビ信州ゆうがたGet!レギュラー）
学びながら作る、地産地消の料理会。

参加者の声　こんなに素敵な取り組み、ありがとうございました。多世代の方と協力しながら、エシカルのことについて意見交換し料理を作れたのがとてもインパクトに残っています。これからの未来、お肉やお魚には供給の限界が来ると思われるため、エシカル料理の需要は確実に高まってくるなと感じました。

うまれるアイディアブレスト 高山村（全2回）

実施日▶2023年11月28日・1月10日
ゲスト▶竹内大貴さん（REDWOOD INN マネージャー）・原靖徳さん（高山村役場）
情報を知り、できることを考え、意見を出してプロジェクトになっていく。

参加者の声　高山村に行ったからこそ感じたものを発表したり共有したりできて、将来性がとても高くてワクワクしました。こうやってアイデアを出し合い、みんなで作り上げていくことってとてもステキだなと感じました。

【コラボ公開講座】箕輪厚介氏と考えるキャリアビジョンの形成

実施日▶2024年1月5日
共同主催▶Egg Lien Space／一般社団法人信州子育てみらいネット
後　援▶長野県教育委員会
ゲスト▶箕輪厚介さん（編集者／実業家）
高校生大学生に伝えるキャリアビジョン。

参加者の声　「階段は上から方式」というのが特に印象に残った。記事の書き方についても「ターゲットを明確化してそれに向けて書く」というのも参考になった。上記2点は幅広くビジネスにおいて使えるし、今後のライター活動やイベント企画に役立てたい。

※ゲストの肩書きは開催時点のものです

地域コーディネーターの活動

県内の各地域で活躍する4名の地域コーディネーター。
事業者や企業、自治体や地域とCSIを結びます。

北信担当

日髙 健 Hidaka Takeshi

東京都出身。米国ミネソタ州Carleton College卒業後、コンサルティングファームを経て2020年1月に小布施町に移住し、「地に足のついた営みをつくる」をミッションに活動。地域企業と都市部人材が協働するプログラム「小布施バーチャル町民会議」や、地域の特産品を活用したビール醸造プロジェクト「まちとクラフトビール大作戦」等の立ち上げに携わる。現在、小布施町の企業を対象に採用や人材育成の課題に取り組む「まちの人事部」事業の立ち上げに奔走中。

考えすぎず、感じることからイノベーションを生み出す

温泉やワイナリーなどの魅力をもつ高山村。若者が少ない村に関わる学生を増やすべく、標高1,500mの牧場で星空観賞をするツアーや、村でやりたいことを妄想するワークショップを実施しています。

その活動と並行して、地域コーディネーターと学生コーディネーターが集う合宿を小布施町で開催しました。まち歩きや対話をするなかで印象に残ったのは「ソーシャルイノベーションを生み出すために重要なことは、考えるのではなく感じること」という言葉でした。地域と大学の橋渡しをするなかで「思い通りの成果を出すためにどんな仕掛けが必要か」などと考えてしまうのですが、思考を少し手放し、周囲のエネルギーや自分の感情に目を向けることで、真にイノベーティブな発想を生み出せるのかもしれない。そんな気づきを、今後実践に移していきたいです。

学生コーディネーター

グローバルマネジメント学部1年 浅見 日菜子 さん

美術館や展示会に行くことが好きで、色々な場所に足を運んでいます。先日、長野県御代田町にあるMMoPを訪れてきました。小さな木の椅子が並べられた空間や遊び方に正解のない遊具など、そこにしかない空間がひろがっていました。学生CDの活動を通して「あぁ。なんかいいな」と思えるプロジェクトを立ち上げたいと考えています。

#美術館巡り　#なんかいい
#好きを形に！

東信担当

藤岡 聡子 Fujioka Satoko

「老人ホームに老人しかいない違和感」を元に24才で有料老人ホームを共同創業、あらゆる人とともに町に開いた居場所づくりを実践。デンマーク留学を経て東京都豊島区にて「長崎二丁目家庭科室」主宰、2019年より長野県軽井沢町にて「診療所と大きな台所があるところ ほっちのロッヂ」共同創業。第10 回アジア太平洋地域・高齢者ケアイノベーションアワード2022 Social Engagement program部門で日本初のグランプリ受賞。掲載歴にAERA「現在の肖像」など。

好奇心に突き動かされて動いていく

「廃校で何かする夢をみた。さとちゃん、廃校に詳しい人知らない？」町内の中学生から声をかけられ、迷わず向かった先は南信の松川町。軽井沢町には大学がなく、長野県立大学へのアクセスもいい訳ではありませんが、町内の小中高生の好奇心を地域につなげながら、その動きを県大生と共に活動し始めた2年目の春先でした。小学生そして県大生を加え総勢7名で、同じ地域コーディネーター南信担当の新井さんにご案内いただき、2つの廃校をはじめ松川町・飯田市のエリアを回りながら、地元軽井沢町との同じ・違いをじっくり考えた2日間。好奇心に突き動かされて動くこの一行の運転手をしながら、長野県全体が発する、人を魅了し続ける力を感じたのでした。

学生コーディネーター

グローバルマネジメント学部1年 内田 大晴 さん

善光寺近くの宿坊、玉照院の住職、山ノ井さんとスキーを通したマインドフルネスの体験を目的としたイベントを、2月ごろ開催予定で企画しています。地域で活動するさまざまなプレイヤーとかかわることで、多くの学びを得ることができて楽しいです。来年度以降はスキーだけでなく、多様な切り口でマインドフルネスを広める活動をしていきたいです。

#スキー　#マインドフルネス　#寺

中南信担当

北埜 航太 Kitano Kota

1994年東京都生まれ。学習院大学法学部を卒業後、PRベンチャー、新聞社系WEBメディアでの広告企画をへて、2019年に辰野町に移住。取材・執筆・編集・企画に取り組む「間（あわい）」の代表。農村の課題解決型ツーリズムプログラム「お困りごとTRIP」の企画運営や、県のゼロカーボン社会共創プラットフォーム「くらしふと信州」のコンセプトやネーミングなど、協働や共創を生み出せるような広義の編集者を目指す。

対話から生まれた「産地の編集室」というコンセプト

日本を代表する漆器の産地が塩尻市の木曽平沢にあります。そんな木曽平沢に根付く、美しい日本的な暮らしや生業を守り、未来につなげていくためのプロジェクトを現地でコーディネートをしている近藤沙紀さんと共に立ち上げ準備中です。毎月の対話を通じて、生まれたコンセプトが「産地の編集室」でした。漆器の価値を再発見・再編集して新たな使い手に漆器を届けたり、産地により深く関わってくれる関係人口を育んだり、そこから移住、職人の跡継ぎにつながったり、産地で何か新しいことを生み出す共創人口になってもらうなど。まずは来年度をめどに産地商社の立ち上げを計画中。木曽平沢の美しい営みがつづいていくような取り組みに発展させていきたいです。

学生コーディネーター

グローバルマネジメント学部3年 小宮山 文登 さん

私は3年間長野市やさまざまな場所で人と関わる活動をしてきました。その経験を活かしながら今年度、地域CDとCSIとともに、より学生が地域に出て、多様な 人々が“おもしろい”と感じる地域をつくる土壌づくりをしています。県立大の“おもしろい”が、よく、広がっていく、そんな今と先を見ながら活動、学ぶことがとても楽しいです。

#おもしろい
#たのしい
#ひととひと

南信担当

新井 直彦 Arai Naohiko

1980年生まれ。長野県下伊那郡松川町出身・在住。元自治体職員。教育分野をメインフィールドとしながら、社会課題からではなく、夢中になるコト・やりたい思いにつき動かされるコトを起点に、高校生や大学生、地域の若者たちのプロジェクトの立ち上げからアクションまで伴走支援する。主なプロジェクトとして「タガヤス会議」「りんごの木でつくったストリートギターを松川に」「写真を撮る日」「森の中のlittle Free library」「林地残材でプロダクト」「つながるガチャ」など。

山に放置されている材木から新たな価値を生み出す

森林の間伐をする際に出る細い木や枝・葉・根本部分の端材など、建築用材としては使われずに森に残される材木、いわゆる「林地残材」を活用したプロダクト制作にチャレンジしました。販売価格より搬出価格が高くなってしまうという林業の課題もある中で、まずは価値として認識されてこなかった材木に新たな価値を生み出していくところから取り組んでみようというものです。

このプロジェクトには、長野県立大学の学生の他、プロダクトデザイナーやアーキテクト、林業ビデオグラファー、菌クリエイターなど多様なメンバーがそれぞれの持ち味を活かしながら取り組みました。カプセルトイのアイテムや間接照明、スマホスタンドなど、思い描いたアイデアを一つひとつ形にしていく所作は、暮らしをつくる豊かさそのもののように感じます。

学生コーディネーター

食健康学科2年 香取 美友 さん

私は「食」をテーマに活動しており、松川町や小布施町のフィールドワークでは農家さんや経営者さんなどからお話を伺いました。また、一緒に食事もさせていただきました。多様な面から「食」を学んだり、その人の考え方に触れたりすることはとても刺激になります。今後も出会いを大切にしながら、自分が出来ること・やりたいことを追求していきたいです。

#食　#新しい出会い
#自分に素直に

混ざり合って、広がる世界。

心の中に芽生えた「思い」のカケラ。
一人ひとりは小さく頼りないカケラでも、
誰かとつながり合い、混ざり合うことで、
いつしか「何か」が動き出すかもしれない。
常に変化し、不完全であり続けることで、
世界はどこまでも広がっていく。

名　称	公立大学法人 長野県立大学ソーシャル・イノベーション創出センター (Center for Social Innovation Initiatives, CSI)
設　立	2018 (平成30) 年4月1日
所 在 地	長野県長野市南長野西後町614-4 (長野県立大学後町キャンパス)

2023年度 STAFF

秋葉 芳江　センター長
赤羽 久美子
須藤 展啓
小林 絵美子

https://www.u-nagano.ac.jp/cooperation/csi/
https://www.facebook.com/CSI.nagano/
csi@u-nagano.ac.jp
026-262-1725　026-262-1726

制作・印刷 | カシヨ株式会社

長野県立大学
THE UNIVERSITY OF NAGANO

長野県立大学は
「長野県SDGs推進企業登録制度」
第1期登録組織です

ミックス
紙 | 責任ある森林管理を支えています
FSC® C008865

VEGETABLE OIL INK

Waterless Printing Naturally

発行日 2024年3月11日

※本誌記載内容の無断転載はご遠慮ください